

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成30年4月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 人文科学研究所

職 名 教授

氏 名 池 田 巧

助成の種類	平成 29 年度 ・ 研究活動推進助成			
研究課題名	チベット=ビルマ諸語の歴史的展開と言語類型地理論			
共同研究者	(所属・職名・氏名)			
発表学会文献等	(この研究成果を発表した学会・文献等)			
成果の概要	研究内容・研究成果・今後の見通しなどについて、簡略に、A4版・和文で作成し、添付して下さい。(タイトルは「成果の概要／報告者名」)			
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	1,000,000 円		
	使用した助成金額	1,000,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳	費 目	金 額	
		編集打合せ招へい旅費	153,820	
		出版物ページレイアウトの委託費	453,600	
出版印刷費(見込)		392,580		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)			

成果の概要／池田 巧

代表者は『チベット＝ビルマ諸語の歴史的展開と言語類型地理論』というテーマで、アジアの諸言語の多様性と、構造の深層における言語間の共通性と関係性の有無を明らかにし、言語史を再構築するという、基礎的かつ先進的な研究に取り組んでおり、科研申請までの数年間にわたって、チベット＝ビルマ語研究のエキスパートを構成員とする研究会（TB＋[プラス]研究会）を不定期に開催してきました。このたびの助成により、メンバーの現地調査に基づく実証的な研究報告と、批判的かつ建設的な討議により、分析の妥当性を吟味して得られた良質の研究成果を集積して論集を刊行するという一連の研究活動を、平成29年度も中断することなく継続することができました。厚く御礼申し上げます。

研究会では、チベット＝ビルマ諸語とその周辺言語における類型構造のなかから比較分析に値する重要なテーマとして「使役の構造」を取り上げて討論を重ね、論集の刊行準備を進めておりました。すでに検討した諸言語については、報告者に論考の執筆を依頼し、論集にまとめるべく編集に着手しましたが、主要な執筆メンバーに、勤務先の要職に就いた者、所属が異動になった者、出産した者、在外研究に出ていた者、病気療養を余儀なくされた者などが相次ぎ、年内にすべての論考をとり揃えることができませんでした。そこで第一次締切りを2018年1月末に設定しなおし、先に提出された12篇の論考について年度内に編集をすすめました。残りは次年度に繰り越さざるを得ませんでした。やむを得ない事情として、御了解をいただきましたら幸いです。その後、2018年3月11日〔日〕に編集会議を兼ねた研究会を開催し、未研究だったチノ語とギャロン語についても検討しました。調整の結果、上述した諸事情のある者もみな、2018年5月末の第二次締切りに向けて執筆または改訂を進めており、本年度前半には論集『シナ＝チベット系諸言語の文法現象2 使役の諸相』を刊行すべく、ひきつづき編集作業を行なっています。

[研究会の記録] 2018/3/11 (日) 京都大学人文科学研究所セミナー室1にて

研究報告:

- (1) 林 範彦 チノ語悠楽方言の使役
- (2) 長野 泰彦 ギャロン語ボラ方言の使役表現

[編集集中の論集]

タイトル： 『シナ=チベット系諸言語の文法現象2 使役の諸相』

収録論文と暫定目次（仮タイトル／順不同）：

荒川慎太郎	「西夏語の使役について」
岩佐 一枝	「撒尼彝語の使役表現について」
加藤 昌彦	「ポー・カレン語の使役と逆使役」
白井 聡子	「ダバ語における自他動詞対と使役」
鈴木 博之	「カムチベット語梭坡[Sogpho] 方言（丹巴県）における使役表現と構造」
林 範彦	「チノ語悠楽方言の使役」
本田伊早夫	「カイケ語の使役構文」
長野 泰彦	「ギャロン語ボラ方言の使役表現」
野原 将揮・	
戸内 俊介	「〈清濁別義〉とされる現象について」
松江 崇	「古漢語における使成表現の歴史」
池田 巧	「ムニャ語の自他動詞と使役構文」
桐生 和幸	「メチェ語の自他動詞と使役の連続性」
高橋 慶治	「キナウル語の使役」
澤田 英夫	「ロンウォー語の非使役-使役動詞対」
海老原志穂	「アムド語の使役について」